

日欧 EPA が 2 月 1 日発効します！

欧州から輸入される集成材や製材品、木質ボード等の関税が 0.5~0.7%引き下げられます。今後、8年かけて関税は撤廃される事になります。折角、需要が回復してきた杉材の価格にどのような影響が出るか心配です。

ところで EPA、FTA、TPP 等マスコミで良く聞かれますが、その違いが良く解りません。以前は GATT や GATS と言うのも良く聞きましたが、その違いは何なのでしょう？ GATT は関税及び貿易に関する一般協定で、GATS はサービスの貿易に対する一般協定です。それらを纏めて、特定の国や地域で物品の関税やサービス貿易の障壁等を削減・撤廃する事を目的とした協定が FTA (Free Trade Agreement 自由貿易協定) であり、さらに締約国間での経済取引の円滑化、経済制度の調和、サービス・投資・電子商取引などの様々な経済領域での連携強化・協力の促進などを含めた条約が EPA (Economic Partnership Agreement) です。昨年 12 月にアメリカ抜きで発効した TPP (環太平洋パートナーシップ協定) は内容的には EPA と同じようです。関税が下がることで輸出競争力が強化できる一方、安い外国製品が増え、国産材の需要に影響があるのでは？と、心配されます。何となく解ったようで、良く理解できない説明ですが、今後の状況変化を注視していきましょう

釘のめり込みに注意しましょう！

既報 267 号 (H30.10) でも紹介しましたが、釘のめり込みによる面材の構造耐力壁強度の低下が、瑕疵と判断される事例が増えているようです。日経ホームビルダーが実験を行った事例が一部紹介されていました。実験は梁；米松、柱・間柱；杉、土台；米樺、9mm 厚の米松構造用合板に N50 釘を @150 で固定しました (壁倍率 2.5)。実験では空気圧を落とした釘打ち機で頭を少し残し金槌で増し打ちし、めり込み 0mm となるようにした後、加圧を繰り返した。実験後、合板を外す時、13/130 本の釘が合板から抜け、軸材に残ったが、壁倍率 3.0 以上を示しました。3mm 以上のめり込みがあると 30~80%低下すると言われていますが、本実験では釘締めで深さ調整をした為、若干強度低下は少なくなったようです。

【情報】

消費税引き上げに伴う住宅取得支援策の説明会が開かれます

日時 2月26日(火) PM1:30~4:30

場所 宝山ホール

申込 支援制度説明会窓口 Fax0120-555-299

定員 500名(先着順)

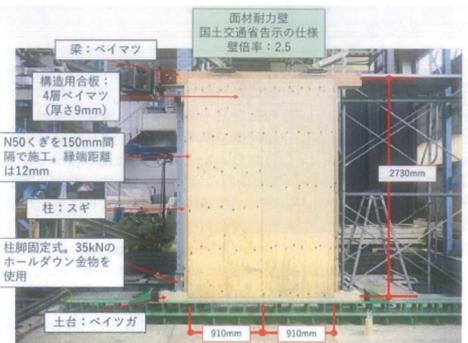
消費税率引上げに伴う住宅取得支援制度、省エネに関する制度、良質な住宅の取得・改修に関する支援制度の概要説明

【定休日】

2月は2,3,10,11,17,23,24日となります

3月は3,9,10,16,17,23,24,31日となります

宜しくお願いします



〔写真1〕 告示仕様を基本に現場を考慮した仕様に構造用合板の厚みやくぎの仕様などは、告示の仕様を基本とした。ただし、軸材や構造用合板の仕様などは、現場の仕様を参考に選定した (写真: 深田 聖司)

日経 XTECH より